

第3回セントラルパーク基本計画検討委員会 議事要旨

日 時：平成28年7月15日（金）14時00分～17時00分

会 場：アクア博多3階 A会議室

議事概要：

発言者	発言要旨
事務局	<開会、挨拶等>
事務局	<議事（1）>基本計画の進め方と構成（資料1、資料2）について説明
委員	意見なし
事務局	<議事（2）>第2回検討委員会の意見と対応（資料3）について説明
委員	意見なし
事務局	<議事（3）>基本計画（たたき台）（資料4-1）について説明
委員	意見なし
事務局	<議事（3）>基本計画（たたき台）（資料4-2）について説明
委員	参考資料3にある「明日の日本を支える観光ビジョン」は、2020年のオリンピック・パラリンピックの年に訪日外国人旅行者数4,000万人、訪日外国人旅行消費額8兆円、地方部での外国人述べ宿泊者数7,000万人泊という目標を掲げており、九州でも訪日外国人の受け入れに向けて様々な施策に取り組んでいる。 大濠公園・舞鶴公園とも共通するところがたくさんあり、例えば141ページ、142ページのサイン計画では、多言語への対応やWi-Fi整備が記載されている。 多言語については、日本語、英語、中国語（繁体字、簡体字）、韓国語の5言語を推進しているが、多言語表記になると文字数が多くなり字が小さく見づらくなってしまう側面もあるので、国際基準のISO規格によるピクトグラムの整備を考えられてはどうか。
委員	138ページの駐車場について、バスの駐車台数は30台では全く足りない。金沢城公園でも66台ある。両公園は地理的に非常に利便性が高く、また地下鉄や路線バスといった公共交通機関も使えるので、マイカー用の一般乗用車の駐車台数を減らし、観光バスが停まれる場所を増やすべきである。 現在多くのクルーズ船が寄港しており、観光バスの客待ちによる渋滞が発生している。両公園周辺で客待ちの渋滞が起らないように、最低でもバスの駐車台数は50台以上は必要だと考える。

事務局	観光バスの対策については市で対応を検討しているところであり、市全体のバス駐車台数の将来計画を踏まえる必要がある。本計画では状況を見ながら流動的に駐車台数を増やしたりできるような対応を検討していく。
委員	バスは完全予約制にすれば事前に来る台数がわかるので、駐車スペースが足りない時は、一般乗用車の駐車スペースをバスの駐車スペースに振り替えるなどの対応が必要である。
委員	クルーズ客は大濠公園への立ち寄りが多いものの、残念ながら舞鶴公園への誘客、送客ができていないというのが課題である。 109ページ、110ページの「アジアを代表する観光地」の利活用イメージは大変よくできている。ただし、観光客をどういう形で誘導していくのかという観点はまだ欠けている。オリンピックに向かって日本全体が動いているので、文化財の観光利用の観点ではとても大事なことである。 どのぐらいのお客さんを誘導できる計画なのかによって、必要なバスの台数も変わってくるのではないかと考える。
委員	「明日の日本を支える観光ビジョン」では、オリンピックの年の訪日外国人の旅行消費額の目標を8兆円としており、この国益を考えてセントラルパーク基本計画の全体像を見ると、どのように文化財や文化の発信をしていくかということは、経済的にも国家ビジョン的にも非常に大きなものである。 一番重要なのは、インバウンドの人たちに対しての回遊性を高めていく中で、福岡市や福岡県域だけでなく、九州、北海道、四国、本州など、様々な地域にどう関連性を持たせていくかということであり、文化だけでなく日本の見え方にも非常に重要なことである。 このセントラルパーク構想というのは、日本のこれからを示唆するような非常に先見的なプロジェクトであり、今の時期にこのような次元で策定をしていること自体が、これからの福岡県、福岡市の立脚を日本的に発信する非常にいい機会だと思っている。 その中で鴻臚館や福岡城の修理や復元が大きなテーマになっていくが、その利活用の仕方や、どうランドマーク的に配備していくかが非常に大きな課題であり、それについては、「精密複製」というものに関心を抱いて頂きたい。 私たちが製作した法隆寺金堂壁画とバーミヤン洞窟壁画をサミットの際に各国首脳に公開したところ、非常に大きな賛同が得られた。 今後の日本において重要となる福岡県、福岡市、九州北部の文化の中で、この公園が持つ意味というのは非常に大きく、今計画されている施設計画だけでこれが表現できるのかをもう一度よく考えてほしい。具体的に言えば、福岡市美術館だけで足りるのか、文化表現施設がそれで足りるのか、パブリックアートだけで足りるのか、復元の仕方はどのようなやり方があるのか。それについては、新しい様々な事例をもっと収集すれば必要なものがあぶり出されてくると思う。

	また、「芸術文化」が「賑わい」の中の１項目となっていることが残念であり、全体を文化でくくって計画が見直されることを願っている。その中で、鴻臚館や福岡城の復元や、両時代の間の何百年という隔たりをどうするかを示唆することで、観光価値は何倍にも膨らむと思っている。
委員	県立美術館の話を入れ込むことが難しいのは理解しているが、今の状態では芸術文化エリアとしては寂しい。全体的なパワーアップ、魅力の増進という観点からも、新たな文化施設を芸術文化エリアに導入できるような含みを持たせられないかもう一度検討してほしい。
事務局	具体的な施設の書き込みは難しいが、将来的な文化の拡がりを何らかの形で書き込みたいと思っている。
委員	前回の委員会において、バス駐車場が観光客の買い物待ちに利用されているという意見があったが、本来は公園利用のための駐車場であるという認識をある程度持たないといけない。 大濠公園駐車場や裁判所跡の整備計画は非常に良いと思うが、全体としてみると、観光の観点からはもう一つ魅力に欠ける。象徴的なものが必要であり、もっと大胆なものが無いかと思う。 今の絵では、陸上競技場が異質であり、将来的には武家屋敷が並んであったような形で再現して、お土産屋やレストランなどを設置すべきではないか。観光客を呼び寄せるものがちょっと足りないと感じる。
委員	福岡城は本物に、原点に近づけていく努力をしっかりとやらなくてはいけない。 現在の歴史的建造物で城内の本来の場所にきちんと配置されているものはほとんどないため、全体として本物を整備しなおすことが大事。部材が残っている花見櫓や潮見櫓を本来の場所に復元し、福岡城がどうあったかを探ることが大事である。 １４３ページの防災計画に「安全性の向上」とあるが、福岡城南側の石垣が危険な箇所を利用者が通行している。福岡城跡整備基本計画においては、石垣の危険箇所が挙げられているが、全く手立てがなされていない。安全性を考える上では、そういうところの修理、強化をやらなくてはならない。 １６３ページ、１６４ページの裁判所跡について、公園整備前の発掘調査で、何らかの遺構が発見されたら駐車場の計画は頓挫することになるが、どう考えているのか。また、総合案内施設などは土塁の上に作るものではないと考える。 １５３ページ、１５４ページのくじら公園から西広場の斜面広場の整備案は、土塁部分の復元であればまだしも、土塁保護という名目で埋めてしまって、土塁らしさを損なうということであれば本末転倒である。もう一度検討してほしい。
事務局	今回の整備案については、事前に文化庁とも協議した上で委員会に出しているところである。 裁判所跡については、発掘調査の結果次第で内容を再検討することを資料に記載

している。発掘調査を待っていても何も絵は描けないので、この場所性などから検討し、現時点ではこの案で良いのではないかと考えている。

また、くじら公園から西広場については、土塁を見せることが第一であることは認識しているが、ここの土塁は流出している箇所もあり、土塁の保護という観点から、土塁の形を活かして覆土する方法で整備できればと考えている。B案を有力案として再度調整していきたい。

委員 今の整備案は福岡城の委員会からは怒られるぐらいの計画である。きちんとほかの土塁も参考にしながら土塁を復元するつमりの計画にしてほしい。

委員長 セントラルパーク構想では、文化財のことを第一義的に考えるとしているが、遺構の発掘調査には時間がかかるため、それまでの間の整備をどう考えておくかというところが難しい。

また委員会の中でご指導いただければと思っている。

委員 大濠公園は大きな水面と緑があり、360度楽しめるというのがはっきりとした魅力であるが、舞鶴公園はぼうっとしていて動線もはっきりしない。

まずは動線計画に示されているような、人が入りやすいつなぎをしていただくことが大事である。

委員 109ページの「アジアを代表する観光地」のモデル事例については、将来的には個人観光客や、東南アジア、欧米からの観光客も増えることが予測されるため、「団体客」に限定するのではなく、「観光客」という形で表現してほしい。

134ページの便益施設計画については、観光客の将来的なニーズも踏まえ、公園の中でお金を落として頂けるような施設計画を検討してほしい。

また、サービス施設の新設を検討しているエリアは、大濠公園西側が中心になるのか。

事務局 大濠公園では池の東側を中心に、サービス施設を2箇所設置しているが、美術館の展覧会などがあるときは、東側の混雑が激しいというご意見もあり、西側にもサービス施設を設けることで、機能の充実と利用者の分散にもつながると考えている。

委員 142ページのサイン計画に「表示内容の統一」とあるが、IT技術や情報技術の活用や、ピクトグラムなどについても記載してほしい。

また、4ヶ国語表記の必要性だけでなく、タイやベトナム、インドネシアなどの東南アジアからの観光客にも将来的には一定の配慮をしていくといった記載があるといい。

委員 子供の視点を入れることは大変重要であり、今回随所に入れてもらったため、良い展開になっている。

しかし、様々な人の利用を考えると、もっと多様な視点が必要であり、ユニバー

	サルデザインの考え方をはっきりと打ち出した方がいい。具体的な記載はトイレのところだけになっている。利活用モデルのあたりが盛り込みやすいのではないかな。
事務局	公園全体としてユニバーサルデザインに配慮していくことがわかるような表現の仕方を検討したい。
委員長	ユニバーサルデザインは公園だけの話ではないので、周辺の道路のあり方など、広い目で検討してほしい。
委員	最近、世界的なアーティストやデザイナーが遊具のデザインをしていたりして、周りの環境との親和性や文化性が高く、そこ自体が鑑賞の対象となっているところもある。遊具とパブリックアートの機能を重ね合わせるとか、そういったことも検討してほしい。
委員長	ここで、本日欠席の委員から事前に意見を頂いているので、事務局から読み上げをお願いします。
事務局	欠席の委員から事前に頂いた意見は、 ・目標来園者数の400万人を達成するために、把握している現在の利用状況を踏まえて、再整備計画や管理運営計画で何をやるべきか、しっかり考えておく必要がある。一般利用者と施設利用者に分けて目標を定めてもいいのではないかな。 ・歴史に関する解説標識については、歴史的建造物だけでなく、人物や生活の様子も描いたヨーロッパの解説サインのように、市民や観光客に対して解りやすく、かつ当時の様子を彷彿させるようなものを考えたかどうか。 ・サインなどにQRコードを表示し、携帯端末で読み取ることでVRやARの解説システムが使えるような仕組みや、公園全体でW i - f i が利用できる環境づくりも検討してはどうか ・舞鶴公園の広場の排水や三の丸スクエア内のトイレの汚水排水の機能不全といった問題があるため、何らかの対策が必要である。 以上である。
委員	初めて福岡城跡に来て名島門の解説を見たとき、本来ここにあったものではないことを知り、観光客はとてものがっかりする。そういった本来の門や櫓の配置などの真正性について、この計画でどのように盛り込んでいくのか。
事務局	名島門などの本来とは違う施設をどうするかというのはまだ検討中である。 福岡城の整備については、今年度は多聞櫓の保存修理を予定している。今後も福岡城跡整備基本計画に基づき順次整備を進めていく。
委員	その福岡城の計画の内容について、セントラルパーク基本計画の中にきちんと入

れ込むべきである。

委員 大濠公園はジョギング等の利用が非常に多くトラブルも発生している。舞鶴公園にもジョギングコースを設定し、利用者を分散できないか。

事務局 両公園の回遊性向上は重要なテーマである。ジョギングコースについては、125ページの「主要な動線」に記載しており、周辺道路も含めた「お堀をめぐる路」や、公園内では「緑の路」を設定しており、両公園の回遊性を高めていく。

委員 観光客を呼び込むというテーマに対して何をすべきかという道筋がまだ見えてないという印象を受けた。

目玉となる施設の整備には時間やお金、関係者の協力も必要となってくるので、まずは観光客を呼び込むことの位置付けを色々な角度から捉え直せないかと思う。

当面は、ここが福岡の生活や歴史が学べるような福岡全体の観光の出発点であるとか、あるいは、これまでの文化やアートなどの新しい分野に関して、市民がこの公園を活用して育てていく場所であるとか、そういったことをきちんと構想して進めていくことになると感じた。

公園というのはまずは地域の皆さんに愛されるというのが利用の上で一番大切なことであり、今後、観光客を呼び込むにしても、一般利用と観光とのゾーニングをしっかりと行い、これまでの公園利用が阻害されないような動線や交通の計画が重要である。

委員 平和台陸上競技場の将来的な扱いはどうなるのか。東平尾公園に機能を移すなどの努力はしていないのか。

事務局 セントラルパーク構想においては、使用に耐えられなくなるまでは利用しており、また、国際マラソンや現在の利用率を見ても、この先15年での移転はないものと考えている。

具体的な移転の時期などのこれからのあり方については、現時点で特段検討は行っていないと聞いている。

委員 陸上競技場を一般利用者に無料で開放するという方向性はないのか。

事務局 市の財政状況も厳しいということもあり、一般利用者からは施設使用料を頂いている。

委員 インバウンドの話もあるが、県民・市民がこのコンテンツに満足されるのかということも重要である。

これだけの施設を管理していくには、地元の方にボランティアなどの無償の行為とか郷土愛とか、そういうものに大変大きな負担を強いなければいけないところもある。逆にインバウンドを呼び込み活性化するための貴重な文化刺激施設だと考え

れば、これだけのコンテンツで、また、大きな競技場や空白のスペースがあり、文化財が埋まっているが表面は芝生だけ、ということで満足されるのかも問われるべきである。

例えば、鴻臚館は福岡城以上の歴史の長さを埋蔵しているが、その文化資源の記憶をどう生かすかというときに、鴻臚館跡展示館だけで満足できるのか。それで足りないのであれば、ギリシャのアクロポリスように外側に施設を設けることもあり得ると思う。

そういうことを考えることによって、公園を支えようという県民・市民の意識がつながった時の夢をかき立て、ポジティブな空気を醸成できるのではないかと思う。

本当にそれについてはもう一度検討していただきたい。

委員

鴻臚館跡整備基本計画の検討委員会では、北館と南館の整備について、どのあたりに重点を置いた展示をするのか、遺構の表現は平面表示なのか立面で何か構え物をつくるのかといった色々な意見が出ている。

これらの意見をまとめたものについて、再度委員の意見を聞き、パブリックコメントを実施したうえで、次回の鴻臚館の委員会で総合的な結論にたどり着けるような検討を行い、委員会を終了する予定である。

委員長

鴻臚館の委員会での検討結果を受けて、セントラルパーク基本計画における取組みを明確にしていけばいい。

委員

105ページから115ページまで、11の利活用イメージがあるが、例えば、一番最後に記載されている「公園の近くに住む親子」など、日常的な利用者の利活用イメージ「市民に愛される公園」が一番最初に記載され、「憩いの場」「歴史」「アート」、そして「観光」の順番ではないか。

現在、観光客は団体客が主であるが、今後は個人あるいは少人数の旅行者に何度も来て頂くことを想定しており、FIT（海外個人旅行）に焦点を当てる必要がある。この辺りの表現も含めて記載の順番をもう一度考えてほしい。

事務局

<議事（3）>基本計画（たたき台）（資料4-2）について説明

委員

173ページの芸術文化エリアの企画運営目標に「県・市の芸術文化に触れ合い、学ぶ場」とあるが、「県・市の」と限定する必要はあるのか。

事務局

特に意図はないので修正する。

委員

190ページからの地域連携体制づくりについて、「公園をみんなで育てていく」という視点のほかに「公園が県民・市民を育てていく」という視点もあっていい。子供たちをはじめとする市民の活動がここで育っていくという視点をもっと強調して記載してほしい。

193ページで、子供たちの花植えや清掃への参加についての記載があるが、も

	っと色々なところに子供のアイデアや考え方を取り入れるべきである。子供だけでなく、さまざまな立場の方が関わっていくという考え方に基づいて、全体的に記載をチェックしてほしい。
事務局	限定的な表現もあるので、もっと幅広い視点で記載するよう検討する。
委員	180ページに歴史探訪コースがあるが、2020年、2030年あたりではほとんど見るものはなく、ただ通り過ぎていくだけではないか。ほかの予算に頼ることなく、創造性のあるセントラルパークへの取組みを見せてほしい。 また、多聞櫓の南側の方は危険なので、防災を考えているのなら通らせない方がいい。
事務局	ご指摘のようなことにならないよう、計画に基づき、櫓の復元や石垣の調査のほか、必要な箇所については計画的に修理を行っていきたいと考えている。
委員	魅力的なものにしようと思うのなら、やはり本物の再配置をもう一度検討することである。部材が残っている潮見櫓については、両公園の接点のランドマークになると思う。そういうところにも注目して、公園としての在り方、両公園をつなぐ意味での考え方も持った方がいい。
委員長	このことについては、是非具体的に考えて表現してもらいたい。
委員	大濠公園には「大濠公園をよくする会」というボランティア団体があるが、舞鶴公園ではどのような団体があるか。
事務局	舞鶴公園には花壇のデザインや維持管理などを行って頂いているフラワーボランティアや、歴史・観光のボランティア団体などがある。
委員	そういったボランティアは専門的な知識がいると思うが、どのように育てていこうと考えているか。
事務局	ボランティアの育成のやり方については今後検討していくが、現在天神などで取り組んでいる「スポンサー花壇」では、企業から協賛金を頂き、ボランティアの方が花壇のデザインや維持管理を行い、植え付けなどのハード面は業者にやっていた—そういったシステムづくりを両公園でも取り組んでいく必要があると思っている。
委員	この公園の事業を考えると5千人から1万人以上のボランティアが必要だと思われる。このボランティアを育成していくためには、非常にシステマチックな教育プログラムを前段階から始めていかないといけない。また、どういう風に市民の楽しみとして反映していくかというソフトの部分を充実させていかなければならない。

委員

AR、VR、MRなどの技術を駆使し、コンテンツ的な充実を果たしていくことも大事であるが、現在はハードに頼りすぎている。最低限の仕掛けとして、現代から未来に対するソフトコンテンツの埋め込みを同時に考えていかないと、時代に合った計画の策定にはならない。

構想の目的である、憩いの場、歴史、芸術文化、観光といったものをうまく調整しながら整備・運営していくとなると、色々な工夫が必要であると思っている。

ハード面については、今回具体的な資料を提示したが、ソフト面については、企画やイベントをうまくつないでいくことで公園が一体的に活用できる面もあると思っている。芸術文化でもスポーツでも、色々な視点で、どう活用することでソフトとハードがつながっていくのか、もう少し深くしていく必要があると思っている。

委員

両公園は素晴らしい憩いの空間であり、その上に歴史、文化、芸術が積み重なった財産である。それをしっかり生かしながら、インバウンドへの対応や観光拠点をどうつくっていくかが課題だと思っている。

市民に愛され、観光客にも来て頂くためには、本物を追究していくことが重要だと思っているが、それにはお金も時間もかかるので、ソフトをうまく重ねながら、ハード・ソフトの両面からしっかりやっていくことで良い公園になると思っている。

委員

本日初めて委員会に出席したが、このエリアの期待度の高さを実感した。制約はいろいろあるが、本日の意見を踏まえてよりよいものにして頂きたい。

委員長

今回の委員会では、セントラルパークの果たすべき役割は何かなどフィロソフィカルなところをもう少し書かれる必要があるという意見が出たが、今回の資料が大変膨大で説明しきれなかったところにそれが埋もれていたりするので、もう少しわかりやすく、かいつまんで書いたほうがいい。

この公園は憩いの場であり、また歴史、芸術文化など、日本でここにしかない特徴を持っており、そういうことに対してどう取り組むのかという考え方を、次回示しながら説明に入ってもらえらるともっとわかりやすい。

事務局

本日頂いた意見を踏まえて、事務局で検討を進める。

次回開催は委員長とも相談の上、日程調整させて頂く。

第3回検討委員会は以上で閉会する。

—— 以上 ——